

令和8年10月号



春日部セントノア病院

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
<https://www.saintnoah-kasukabe.jp>



～目次～

- 病院短信
 - 日常の一コマ
 - いきいき看護・介護
 - 作業療法科だより
 - 誕生日会
 - スタッフ紹介
- 島村 美郷
國井 文江
村山 尚美
栗田 歩
デイルームにて
伊藤 美紀

10月の予定

◇誕生日会

1病棟	10月	6日(火)
2病棟	10月	5日(月)
3病棟	10月	9日(金)
各病棟デイルーム 14:00～		



★秋祭り 10月17日(土)院庭にて

お月見ゲーム!



9月25日は中秋の名月。今年はいにくの曇り空でしたが院内ではそんなことはお構いなし! のびのび楽しくお月見を楽しみました。お月見団子を最速で盛り付けるのはどのチームか? いざ勝負!

9月誕生会



スタッフ紹介

3病棟看護師

いとう みき
伊藤 美紀

趣味: 家族旅行
やってみたいこと: 一日何もせず
過ごしてみたい



10月31日はハロウィンです。日本のハロウィンは海外の宗教的な意味合いよりも「仮装」や「イベント」として独自に発展してきたそうです。そしてこの時期になると我が家の息子も保育園のイベントで仮装をします。今年は何の仮装にしようかと悩みますが、長男から始まり、次男と続いた仮装イベントも、今年が最後になりました。準備は大変ですが、子供たちのために、はりきって準備をしたいと思います。

病院短信

『秋の訪れと秋桜』

1病棟看護師長 島村 美郷

今年の夏は連日のような猛暑に加え、突然の大雨や台風など、これまでとは少し違う異常気象を感じることも多かったように思います。体調管理が難しい日々が続き、暑さによる体力の消耗や水分不足など、季節の変化に合わせた細やかな対応が必要となりました。そうした暑い夏も終わりを迎え、朝夕には秋らしく虫の声も聞こえてきます。患者さんにも季節の移り変わりは大切なものです。

患者さんは毎日の活動で歌を歌っています。昔懐かしい「ブルーライト横浜」。男性と女性の患者さんの声が元氣よく聞こえて来て、こんなにもコーラスグループのように楽しく歌う様子に感動し、思わず拍手をしてしまいました。

また、精神科の医師が、音楽療法で月に一度ピアノを弾きながら、皆で音楽に参加する活動もあります。多くの曲のなかで、この日は私の一番好きな歌が聞こえてきました。「秋桜」です。さだまささん作詞で、山口百恵さんが歌ったヒット曲です。

秋の花といえば、秋桜（コスモス）を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。その姿を見ると、どこか懐かしく優しい気持ちになります。秋の青空の下で可憐に咲く姿は、秋の風景そのものです。一面に広がるコスモス畑は圧巻です。

季節の花は、その人の記憶や思い出を呼び起こすきっかけにもなるものだと思います。

この歌は、結婚を翌日にひかえた娘の母に対する感謝と、このような小春日和の穏やかな日はまだもう少しあなたの子供でいたいと願う娘の愛情と、娘の幸せを願いつつも寂しい気持ちをもちながら、元氣でと願う母の愛を歌った名曲です。この曲を聴くといつも母を思い出し胸が熱くなります。

これから秋が深まり、厳しい夏をのり越えた秋桜が、風に揺れながら色とりどりの花を咲かせるように、私達も日々の小さな変化を大切にしながら、患者さんに寄り添う看護、介護を続けていきたいと思っています。

今年の秋まつりも皆様の思い出の一コマになるように、職員一同で頑張ります。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。



作業療法科だより

作業療法士 栗田 歩

「秋の長雨」という言葉がありますが、今年は特に雨が多くジメジメした日が長～く続いていますね。先日、そんなジメジメを吹き飛ばそう & いつのまにか過ぎ去ってしまった夏の名残を感じようということで”かき氷を味わう会”を開催しました。

用意されていたかき氷機を目にすると、「かき氷が食べられるの!？」と皆さんのテンションは一気に高まります。今回用意したシロップは、いちご・メロン・パイナップル・マンゴー。皆さんに、それぞれ好きな味を選んでいただきました。私たちの予想では定番のいちごが一番人気かと思われましたが、意外にも人気ナンバーワンはマンゴーでした。患者さんからは「珍しいからぜひ食べてみたい!」「せっかくだから食べたことない味がいいね♪」「絶対マンゴーだね!」との声が多数上がりました。

かき氷を味わいながら、縁日で食べた思い出や「昔はイチゴ・メロン・レモン味しかなかったよね」「食べるとペロが赤くなっちゃったりしてね」など会話が弾みます。来年の夏もぜひ開催しようとの旨を伝えると大きな拍手が起こり、大好評を博した今回のかき氷の会となりました。これからも、患者さんと共に楽しく季節を感じられる活動を開催していきたいと思っています。



日常の一コマ

今月は3病棟の操さん(75歳)をご紹介します。

東京都墨田区で3人姉妹の長女として生まれ、保育関係の学校を卒業。26歳で結婚し、2人のお子さんに恵まれ、68歳まで保育士として働いていました。

定年後はご両親の世話をしつつ、ご主人と趣味の旅行を楽しんだり、歌(シャンソン)が好きで個人レッスンを受けたり、発表会を開催したりしていたそうです。

その後、令和元年のコロナ禍をきっかけに活動意欲が低下し自宅にこもりがちになり、ご主人が旅行や外出に誘っても断るようになってしまいました。友人と集まる機会も減ってしまい、令和2年頃より症状は悪化。焦燥感や徘徊、食欲不振が見られ、翌年には入退院を繰り返していました。

令和6年には自宅介護困難にて施設入所し、入所後は無為自閉で他利用者さんとも交流はなく、表情もなくなり無気力だったそうです。

そして同年、当院に入院されました。入院時は発語は少なく無表情でした。イスに座っていることもできず、小刻み歩行で徘徊を繰り返し、落ちつきがなく、食事も自力では不可能でした。転倒の危険があるので、私たちスタッフはずっとマンツーマンで付添い歩行をし、声かけをして自分で食事が食べられるように促し見守りました。徐々にスタッフに心を開いてくれるようになり、食事

も自分で食べられ表情も明るくなっていきました。今では美声の歌声も聴かせてくれます。

「ご飯まだ?お腹すいちゃった」と話され、スタッフが冗談で「食べたよー」と返すと、「うっそ、食べたっけ...?食べてない」とかわいい笑顔を見せてくれます。

スタッフと冗談のやり取りもできて、いつも明るい表情で穏やかな生活を送ることができています。

これからも操さんの素敵な笑顔が続くよう、そしてケガなく穏やかな生活ができるよう援助し、見守っていききたいと思います。

3病棟看護師 國井 文江



いきいき看護・介護

3病棟介護福祉士 村山 尚美

口腔ケアは、「歯を守る」ための行為にとどまらず、病気やトラブルを予防する「衛生面」や、呼吸を楽にし、食べる、話すといった生活の質を保つ「機能面」などの大事な役割をしています。

一番の目的は、口腔内の細菌が肺に入って起こる「誤嚥性肺炎」の予防です。また、しっかり嚥んで食べることで、認知症の予防や全身の健康維持にもつながります。

【ケアのポイント】

- ・安全な姿勢...誤嚥を防ぐため、体を少し起こし、あごを引いた姿勢で行います。
- ・優しく丁寧に...粘膜や歯ぐきは傷つきやすいため、ブラシは軽い力で動かします。
- ・乾燥対策...口が渴いていると、汚れが落ちにくく傷つきやすいため、ケア前に保湿ジェルなどで潤します。

患者さんも、「拒否がある」「うがいが出来ない」

など、状態は人それぞれです。

お互いに無理なくお口の健康を守り、元氣な毎日

を過ごせるようにケアをしていきます。

